

## 2016年度 第2回 第三者定期監査の結果の報告について

### はじめに

日本原燃は、2004年度より、「再処理施設 品質保証体制点検結果報告書」で示された「品質保証体制の改善策」（以下、「改善策」と記す）および2009年に再処理工場で発生した「高レベル廃液漏えい」を受けて策定した「安全基盤強化に向けたアクションプラン」（以下、「アクションプラン」という。）の実行状況とPDCA展開状況について、第三者監査機関であるロイド・レジスター・ジャパン（今年度よりロイド・レジスター・グループ・リミテッド。以下、「LR」と記す）による継続的な確認を受け、その結果をご報告してきました。

今回の監査は、前回までの監査内容を踏襲し、日本原燃の各担当部署が改善策を反映した日常業務を風化・形骸化せず実行している状況、マネジメントレビューの状況、トラブル／不適合事象の再発防止対策の状況、内部監査の実施状況を注力事項とした監査を受けました。加えて、2015年度以降の保安検査において、濃縮事業部、再処理事業部および安全・品質本部に対し複数の指摘事項を受けたことや、埋設事業部に対する第三者定期監査時に観察事項が提起されたことなど、各事業部における品質マネジメントシステムの再検証が必要と考えられる事象が観察されました。

定期監査の開催日程については以下のとおりです。

- ・2017年2月24日 : 安全・品質本部
- ・2017年2月22日～23日 : 濃縮事業部
- ・2017年2月22日～23日 : 埋設事業部
- ・2017年2月21日～22日 : 再処理事業部

### 1. 監査の結果

「指摘事項」および「観察事項」は、いずれの被監査部門にもありませんでした。なお、「提言事項」※<sup>1</sup>が、安全・品質本部に4件、および再処理事業部に1件ありました。

（添付-1: 「2016年度第2回定期監査におけるLR提言事項と日本原燃の処置方針」参照）  
また、「良好事例」として、再処理事業部から1件抽出されました。

※<sup>1</sup>（提言事項の定義）：定めた要求事項が実践・実行されている。その上で、今後のより優れた運用を期待して参考提言する事項。提言事項の採否は、被監査部門の任意でよい。  
なお、指摘事項および観察事項については、各報告書の5項監査結果の評定の定義を参照のこと。

### 2. 監査結果の概要

LR監査報告書（全体総括）の中で示された総合所見の抜粋は、以下のとおりです。

#### (1) 「指摘事項」、「観察事項」、「提言事項」

いずれの被監査部門にも「指摘事項」および「観察事項」は提起されなかった。「提言事項」については、安全・品質本部に4件、再処理事業部に1件提起した。

## (2) 「良好事例」

「改善策」および「アクションプラン」の対応成果は、新たな仕組みやルールの構築と言う形で日常活動に組み込まれている。その日常活動の中で、PDCAを展開して、さらなる改善、あるいは、新たな仕組み構築が進められている。こうした状況の中で、「良好事例」を再処理事業部から1件を抽出した。さらなる自律的改善が図られている事例として参照していただきたい。

## (3) 各注力事項に対する個別所見

### ①品質目標に取上げられた主な活動が、効率的・効果的に実行されている状況

安全・品質本部においては、初めて放射線安全 G が監査の対象部署となった。達成度が判定可能な品質目標の設定については改善の余地があるが、活動そのものは具体的な実施事項や実施期限などを明確にした上で精力的に取り組まれ、上半期末時点での成果と進捗などが評価されている。

また、濃縮事業部、埋設事業部、および再処理事業部のいずれの事業部においても、それぞれの部署が具体的な実施事項、達成指標、実施期限などを明確にした上で展開し、上半期末時点での成果と進捗などが評価されている。

よって、品質目標の取り組みについては、どの部門においても自律的な活動を推進する中で成果を生み出している状況があり、また、進捗が遅れている活動についてはPDCAサイクルを回すことで善後策に結びついている状況など、適切に機能していると見受けられる。

### ②トラブル／不適合事象の再発防止対策(是正処置および予防処置)の取組み状況

今回の監査対象部署の一部においては作業現場を有していないことから、トラブルや不適合と関わりの薄い実態があるので、自部門の業務上のミスや他部署との連携不良などに起因する不具合事象の有無について尋ねたが、結果としてそのようなケースが無いことを聴取した。

一方、作業現場を有する部署では不適合の発生事例があるが、いずれのケースにおいても個々の事象に対しては不適合管理帳票がタイムリーに起票されており、以降、原因究明及び是正処置など、一連の不適合処理活動が適切に進捗している状況が観察できた。

総じて、不適合管理については決められたルールを厳格に守る強い意気込みが感じ取られた。

### ③各事業部、室／本部の保安活動(現場の管理、取り組み等)が継続的に改善されている状況

直接的に保安検査を受検する機会のある部署においては、指摘事項への対処を通じて、計画を立てた異常時訓練の実施や出入管理建屋洗濯設備の使用要領の改善などに結びつける活動が行われている。また、日常業務としての安全パトロールや作業前リスクアセスメントなどによって安全を確保する活動や、ウラン廃棄物埋設処分に係る研究などの作業現場を有しない部署によって行われる支援活動などを含め、いずれの部門においても保安活動が適切に機能していると捉えることができる。

#### ④その他

品質目標達成活動および保安活動に係る監査過程において、教育・訓練ならびに力量管理の状況について監査した結果、監査対象としたいずれの部門においても計画された教育・訓練が実施され、筆記テストなどによって理解度が評価されていることを確認した。

一部の部署において励行されている、改正された標準類の説明会なども実務に直結したものであることから、有効な教育の機会と見ることができる。

#### ⑤前回監査時の観察事項及び提言事項フォローアップ状況

前回の監査時に提起した濃縮事業部に対する 3 件の提言事項、埋設事業部に対する 2 件の観察事項および 1 件の提言事項、ならびに再処理事業部に対する 8 件の提言事項については、いずれも適切に改善が実行されていることを確認した。

#### (4) 終わりに

安全・品質本部および各事業部における品質目標達成活動、トラブル／不適合の再発防止の取り組み、および保安活動の継続的な改善状況などについて監査を行った結果、部門別の監査報告書で述べたとおり、一部に改善の余地が残されているものの、やるべきことが的確に実施され、必要とする改善への取り組みがなされている状況より、これらの活動に関しては、従前の評価と同様に、全体としては品質マネジメントシステムが各部署に浸透し、定着している健全な状態と見受けられる。

また、前回の監査で提起した観察事項や提言事項に対しても前向きに捉えられ、着実に改善の跡がうかがえる。このように、ひとつひとつの事項に真摯に取り組む姿勢が、組織の健全な風土を築く上での原動力になるので、今後もそのような状態が維持されることを期待する。

その一方で、最近、保安検査において厳しい指摘を受けるなど、良好とは言えない状態が浮き彫りになっている。保安検査に係る具体的な活動状況については、今日までの定期監査の対象に含めていない領域であるが、その観点で今後の定期監査のあり方について言及すれば、従前の改善策やアクションプランの理念を重視する基本姿勢を堅持した上で、毎回の監査視点や監査の進め方などについて、日本原燃とロイド間で原点からの見直しを行ってみる価値があるように思われる。

### 3. 監査結果に対する日本原燃の取組み

今年度第 2 回目の定期監査で LR から示された「提言事項」5 件については、すみやかに処置を行います。また、「(4) 終わりに」で示された全社的所見についても重く受け止め、必要な改善を実施するとともに、品質保証システムの遵守の必要性を改めて認識し、着実に取り組んでいく所存です。

以上

2016 年度第 2 回定期監査における LR 提言事項と日本原燃の処置方針

監査項目	LR の提言事項	日本原燃の処置方針	対応部署
<p>品質目標に取り上げられた主な活動が、効率的・効果的に実行されている状況</p>	<p><u>品質目標の達成指標の明確化</u> 品質目標の達成指標については「リスク計画に基づく放射線理解活動の実施」と記載されているが、現状のままでは四半期ごとのフォロー一を行う際に、何を以って達成度が判定されるのかが分からない。JEAC4111-2009 の 5.4.1(2) に基づき、達成度が判定可能な達成指標を明確にすることが望まれる。</p>	<p>2017 年度 品質目標の設定時において、達成指標を達成度が判定可能なものに設定する。</p>	<p>安全・品質本部 放射線安全グループ</p>
<p>品質目標に取り上げられた主な活動が、効率的・効果的に実行されている状況</p>	<p><u>育成方法に対する権威付け</u> コミュニケーションの育成方法については、放射線安全グループが作成し、WG で説明されているが、議事録においても WG において合意されたものか否かが判別できないので、それが分かるようにすることが望まれる。(放射線安全グループの問題ではなく、WG として捉えるのが妥当。)</p>	<p>放射線コミュニケーションの育成方法について、WG の議事録等で合意された記録を残す。</p>	<p>安全・品質本部 放射線安全グループ</p>
<p>品質目標に取り上げられた主な活動が、効率的・効果的に実行されている状況</p>	<p><u>個人ごとの力量の裏付け</u> コミュニケーション力量管理表は各人の力量を明示しているが、力量把握のための筆記テスト結果やリスクコミュニケーション現場での評価結果など、評価した裏付けとの関連付けを明確にすることについて検討されたい。</p>	<p>設定した力量項目毎の評価方法およびその記録について明確にする。</p>	<p>安全・品質本部 放射線安全グループ</p>

2016年度第2回定期監査におけるLR提言事項と日本原燃の処置方針

監査項目	LRの提言事項	日本原燃の処置方針	対応部署
<p>品質目標に取り上げられた主な活動が、効率的・効果的に実行されている状況</p>	<p>筆記テストの採点時期について コミュニケータの力量把握をする際に筆記テストが行われているが、受験者の回答日から約2ヵ月経過しても採点が行われていないものがあった。次回WGまでに採点することのご説明だが、筆記テスト後の採点は適切な時期に済ませておくことを検討されたい。</p>	<p>日本原燃の処置方針 当該筆記テストについて採点した。また、今後記録が発生した場合、速やかに(概ね2週間以内に)採点する。</p>	<p>安全・品質本部 放射線安全部 放射線安全グループ</p>
<p>トラブル/不適合の再発防止対策(是正処置)および予防処置の取組み状況</p>	<p>不適合に係る進捗管理票の運用 不適合管理No. Z01280及びZ01236については、いずれも是正処置に着手している状況から、進捗管理表には少なくとも是正計画日を記載すべきものと思われるが、現時点では記載されていない。責任課が他部署(計装保全課)だからとのご説明であったが、貯蔵管理課が進捗管理表をまとめている立場から、他部署のものであっても必要な情報を入力し、記載することについて検討されたい。</p>	<p>処置担当箇所が自部署以外の不適合であつても、貯蔵管理課が管理(運転)している設備については、進捗管理表にて管理している。 提言のとおり、日付を明記して管理を行き届かせていく。</p>	<p>再処理事業部 再処理工場 ガラス固化施設部 貯蔵管理課</p>